

平成26年10月八戸市教育委員会定例会会議録

- 1 開催日時 平成26年10月29日(水) 午後1時30分
- 2 場 所 市庁本館3階 議会第2委員会室
- 3 委員氏名
- | | |
|----------|---------|
| 委員長 | 築 瀬 眞知雄 |
| 委員長職務代行者 | 大 庭 文 武 |
| 委員 | 岡 本 潤 子 |
| 委員 | 武 輪 節 子 |
| 教育長 | 伊 藤 博 章 |
- 4 職員氏名
- | | |
|--------------|------------|
| 教育部長 | 佐 藤 浩 志 |
| 教育部次長兼教育総務課長 | 澤 田 多嘉男 |
| 教育部次長 | 嶋 脇 郁 夫 |
| 図書館長兼市史編纂室長 | 藤 田 俊 雄 |
| 学校教育課長 | 齋 藤 信 哉 |
| 教育指導課長 | 正部家 光 彦 |
| 社会教育課長 | 田 中 勉 |
| 是川縄文館副館長 | 前 田 美智子 |
| 総合教育センター所長 | 木 村 一 夫 |
| 博物館副館長 | 小笠原 善 範 |
| 図書館副館長 | 千 葉 玲 子 |
| 教育総務課参事 | 尾 崎 雅 祥 |
| 学校教育課参事 | 茨 島 隆 (欠席) |
| 東地区給食センター所長 | 中 里 親 弘 |
| 西地区給食センター所長 | 清 川 彦 一 |
| 博物館参事 | 古 里 淳 |
| 教育総務課主幹 | 松 橋 洋 |

(事務局員) 教育総務課主査 佐藤 正樹

<p>築瀬委員長</p>	<p>ただいまから、平成 26 年 10 月の教育委員会定例会を開会いたします。 本日の議事録署名は岡本委員を指定いたします。 それでは教育長から、主な会議・行事等について説明をお願いいたします。</p>
<p>伊藤教育長</p>	<p>(資料に基づき説明)</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>ただいまの説明につきまして、ご質問などありましたらお願いいたします。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>高総文祭の総合開会式を観ていただいていたお話がありましたけれども、私もずっと高校に関わっている者として、いかに先生が前面に出ないで生徒を主体にした開会式にするかということを考えていました。そういうふうなところを見ていただいて、お褒めの言葉をいただいたのかなと思っております。</p> <p>それと私は全く逆の立場で、ここまで高校生が自己表現をしていける。これはやはり幼保小中の下地があればこそなんだなということ、今痛感しております。特に委員になって、小学校・中学校の演奏会、合唱の発表会、あるいはいろんな活動での表現。いろんな国際交流などの派遣の報告等も聞きまして、やはりこういう下地があって今の高校生のような表現ができるんだなということを感じております。そういう意味で、私の場合は幼保小中のそういう発表の場に接することができて、やはりいろんな形で相互に連携しながら乗り入れながらといたしますか、お互いに見えなかった部分を見ていくと。ここの部分も大事なことだなというふうに改めて感じております。</p> <p>教育長からも話がありましたが、もし次に八戸で総合開会式を行うとすれば3年後になりますけれども、是非機会があれば小・中で育てた子どもたちが高校でどうなっているのかということも見ていただければ、有り難いなと思ってお話しさせていただきました。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>他によろしいですか。 学校間の連携の重要性といったものを、みんなでその立場で認識するということの重要性をお話しいただきました。ありがとうございました。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>それではこれより議事に入ります。本日提出されております議案を審議いたします。はじめに、議案第 41 号「八戸市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について」事務局からの説明をお願いいたします。</p>
<p>齋藤学校教育課長</p>	<p>(議案第 41 号「八戸市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について」に基づき説明)</p>

<p>築瀬委員長</p>	<p>ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。</p> <p>(質疑なし)</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>それでは、議案第 41 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>ご異議がありませんので、議案第 41 号を原案のとおり決定いたします。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>次に、議案第 42 号「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について」事務局からの説明をお願いいたします。</p>
<p>澤田次長兼 教育総務課長</p>	<p>(議案第 42 号「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について」)</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>1 ページの学識経験者からの総評のところにもございますけれども、概ね良い評価をいただいているということで、私もその取組とか実践が高く評価されているのではないかなというふうに思っております。また、教育委員としての意見も反映させていただいておりますので、特にこの報告書についてはこの場で異論ということはありません。</p> <p>あとは、今後の方向性に記載してある事項の実現のために、継続・拡充ということで取り組んでいただければと思っております。特に拡充となっている項目については、いろいろな課題、あるいは予算等の関係もあるかと思っておりますけれども、その実現に向かって一層取り組んでいただければ有り難いなというふうに思っております。取りまとめにあたっては、本当にご苦労されたかと思っておりますけれども、ありがとうございました。</p> <p>それと個々の事業の感想になりますが、14 ページにある重点事項のナンバー12ですけれども、教育相談・適応指導教室の部分について、今後の方向性のところでも施設面の改善のための予算確保であるとか、あるいはいろんな取組について書かれております。私自身の感想としては、比較で申し訳ありませんが、高校よりもこの面では小学校・中学校の取組がずっと進んでいると思っております。学校訪問に同行させていただきながら、先生方の個々の生徒への対応、あるいは体制もつくりながら取り組んでいただいているなと思っております。そういう実態</p>

も踏まえながら、さらにこの辺は拡充していただければ有り難いと思っていますところでは。

次の 15 ページについても同じです。まだいろんな課題があるかと思えますけれども、是非この辺の事業を拡充していただければと感じております。

あとは 30 ページにある重点事項のナンバー51 になりますけれども、小・中学校における防災教育の推進というところで、今後の方向性のところにある副読本の作成についてはもう動き始めているので、この事業が何とか上手く行って、他の地域の一つのモデルとなるようなものができてくれば有り難いというふうに思っています。

あとやはり関心がありますのは 33 ページの家庭の教育力充実事業というところで、幼少期からの家庭教育といってもいいのでしょうか。その辺もやはり重要な問題であるかと思えます。若い人たちのいろんな行動等を見ていまして、大きな問題かなというふうに思っておりますので、この辺のところも取組を進めていただければというふうに感じているところです。

最後に 50 ページの青少年派遣交流事業です。これは二重丸になっております。これも将来の子どもたちにとっては本当にいい経験をしているなというふうに思いますので、是非このまま継続していただければと思っています。場合によってはこの小学校・中学校の体験が、高校に来てそのまま活かされている子どもたちもたくさんおります。そういうふうなことも踏まえながら、今後是非継続していただければと思っています。

岡本委員

感想ですけれども、私も平成 20 年度から見ておりますが、最初よりも格段に見やすくなっているということでも評価できるのではないかなと思います。それは各担当していらっしゃる方の創意工夫と、あとは他地域もこれまで様々見てきたという経緯もあると思います。その見やすさというのがなぜ大事かという、これは評価というものが自分たちだけのものではなくて、それが市民の皆様にも理解いただけて、そして教育が高まっていくというそのプロセスの中にある評価だということ認識いたしますと、やはり分かりやすさということは非常に求められることで、分厚いものからコンパクトにスリムになった点もやはり評価できるのではないかなと思っています。

個々についてはもちろんそうですけれども、この全体の中で教育を発信していくということ。教育というのは今までは子どもたちを評価するという視点だったので、今度は事業自体が評価される。それから学校も教員も全部そうですけれども、そういう中であって、その評価がサイクルの中で活かされていくということが次に求められていくことで、次がこれからまた重要になると思っています。その質について、教育の場合はすぐ目に見えるものではないので、自分たちで自分たちを評価するのはなかなか難しいのですけれども、分かりやすさ

<p>武輪委員</p>	<p>という点はこれからも忘れずにしていければいいかなというふうに思っております。</p> <p>この報告書に関して、意見・質問等はもうございません。今お2人の委員さんからお話があって、同じようなことになるかもしれませんが、私もこの報告書を今年度見させていただいて、まず大変見やすかったなということが第一印象です。たぶんこの評価報告書を作成するにあたって、大変ご苦労されたのではないかなと思っております。ありがとうございました。</p> <p>学識経験者3名の方からの総評にも「教育に関することは見える形で示すことが難しいことは承知しているが」というふうにありますけれども、この私たちがやっていることを文字として表すということは本当に難しいことではあると思いますが、報告する・公表するという義務において、一つ一つの事業そのものがより良いものになっていければなとも私思っております。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>はい、ありがとうございました。最後に私から一言。</p> <p>今3人の委員さんからお話があったのでだぶらないように話しますが、1ページ2ページに学識経験者からの総評があります。ここは本当に的確なアドバイスを与えてくださっているなと思って読ませていただきました。</p> <p>天内さんのところでは、「今後も将来のありようを全体像として描き、現在がどの段階であるか踏まえてほしい」ということがあります。今も大事だけれども、あくまでも将来どうなのかということですね。</p> <p>それから、油川さんが「常に教育基本理念に遡ってみることが大事だ」というふうに書いています。いわゆる原点に戻りましょうということでもあります。この点検評価が単なる報告で終わることのないように、今後の八戸の学校教育・社会教育全体の発展のために活用していくことが大事だなと思っています。</p> <p>また、前田さんが「本市の特色ある学校教育である地域密着型教育など、誇るべきことをしっかり高く評価するべきである」と言っております。また、油川さんがおっしゃっているようなこととも同じですが、やはり八戸の教育基本理念をきちんと考えながら、求める子ども像や市民像に対してどうだったのかを評価していくということが大事だなというふうに改めて思いましたし、課題とともに今ある良さを認めていくということも非常に大事なことだと思っております。</p> <p>最後になりますけれども、油川さんのところの5行目に「教育は長い時間をかけて丁寧に育てる、つまり『培うものである』という視点が大事だ」と書いてあります。このことを忘れてはいけないなと思います。最近の話題においても目の前の数値に振り回されて、その尻を引っぱたくことを考えてしまう。目先だけに目がいくといったことのないように、八戸の教育の健全性を保つということも大事だなと感じました。</p>

<p>築瀬委員長</p>	<p>それでは、議案第 42 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>ご異議がありませんので、議案第 42 号を原案のとおり決定いたします。</p> <p>なお、先ほど澤田次長から説明もありましたけれども、当該報告書については、市議会に対して 12 月市議会定例会開会日に報告するとともに、同日付で公表する予定となっております。出席者におかれましては、12 月市議会開会日までの間、当該報告書の取扱いには十分ご注意くださいようお願いいたします。</p> <p>また、重ね重ねですが、報道関係者各位におかれましても、当該報告書の取扱いについてはご配慮いただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>以上で議案の審議は終わりました。</p> <p>次に報告事項に参ります。はじめに「平成 26 年度第 2 四半期の業務報告について」は、事前に資料が配付されておりますので、委員の皆さんから質問がありましたらお願いいたします。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>それでは 7 ページの青少年グループの 11 番。苦慮している学校が多いという項目の中に、交通安全のモラルの向上とあるんですけども、交通安全のモラルの向上というのは今どういう点で苦慮なさっているのかをちょっとお聞きしたいと思っております。他のことに関しては今までいろいろ出ることなんですけれども、交通安全というのはどういった視点なのか教えていただければと思います。</p>
<p>沼館教育指導課 指導主事</p>	<p>特に小学校で今苦慮されているのは、自転車に関するものであります。やはり低学年を中心として飛び出しはしないというようなこと。あとは、信号をしっかり守りましょうというような指導。そちらの方は定着してきているのではないかなと思っておりますけれども、自転車の事故が非常に大怪我に繋がるという認識をまだまだ伝えきれていないところがあるということで、何とかして自転車の事故を減らしたいというお話がたくさん聞かれております。自転車は楽しいものではあるんですけども、一歩間違えると大変危険なものであるということを何とかして伝えたいというようなことですね。そういうような話がたくさん出ております。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>よろしいですか。他にありますでしょうか。</p>

武輪委員	<p>同じく青少年グループの8ページの15番、防災教育副読本導入事業ということで、教育長の最初のお話でも防災教育副読本の研修会において、八戸工業大学の月舘教授よりお話いただいて、防災ノートについてそれぞれ学年のグループに分かれて意見交換をしたという説明がありました。また、今日の新聞にも大地震に伴う津波で浸水が想定される全国の公立学校を公表ということで、八戸市も小中高合わせて24校ということで、一面に大きく出ておりました。昨日の私の学校訪問においても、北陵中学校で防災教育ということで、もし津波が起きたときにはということで校長先生からいろいろお話を伺いましたが、教育長がお話されたこと以外で、その副読本の作成にあたって今どういう形で動いているか具体的なもしあればお話いただきたいなと思っております。ちょうどこの教育委員に渡される「E d u c o (エデュコ)」という雑誌の2014年秋号にも、東日本大震災を語り継ぐためにということで、仙台市また宮城県の副読本、並びにふるさと復興プロジェクトとか載っていたのですが、八戸市として副読本作成にあたっての今の状況について具体的にありましたら説明いただければと思います。</p>
沼館教育指導課 指導主事	<p>先ほど教育長からもありましたけれども、10月6日にそれぞれの作成委員で作ったものを基にしながら、他の先生方も各学校1名参加する研修会において、様々なご意見をいただきました。例えば下学年でありますと、もっと絵でメッセージを伝えるような具体的なより細かい絵が必要になるんじゃないかとか。上学年の方では、地震の他の災害についても少し触れた方がいいのではないかといったこと。中学校の方では、もう少し書き込みのところを多くして考えるということも大事にしていった方がいいのではないかというようなこと。そういったアドバイスを基にしながら、実は昨日、また合同のブロック研修会を持ちまして、小学校の先生方、中学校の先生方、作成委員の先生方が集まって、これからさらにより良いものにするためにはどうすればいいかということをお話し合いながら進めていっています。やはり自然の災害のことを大きく扱うと、自然が非常に恐ろしいものであるということをお伝えかねないということで、自然の恩恵というものも忘れてはいけないというようなことも話し合われて、ページの構成の工夫や様々なことを今決めている段階であります。</p>
武輪委員	<p>ありがとうございます。ちなみに、参考として現在ある例えば阪神淡路大震災後に兵庫県で作られている副読本とか、たぶん宮城県もすでに副読本というのがあるかと思うのですが、そういうものを取り寄せて参考にしているということもありますでしょうか。</p>
沼館教育指導課 指導主事	<p>はい。あります。三重県でありますとか、宮城県でありますとか、昨年、様々なところから副読本や防災の資料を取り寄せまして、その中で特に参考にできそ</p>

	<p>うなものを中心にいくつか見ながら、それを参考にしながら進めている次第であります。</p>
<p>武輪委員</p>	<p>はい、ありがとうございました。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>定例会でもこれまでいろいろ話題になったところですけども、6ページの9番マイブック推進事業に関連してです。やはりこの事業が今後も充実してほしいという思いからお伺いしたいんですけども、この後10月31日までアンケートを取って、それを集約した上でおそらく今後の対応策等が発表されるかと思うのですが、早急ですみません。アンケート結果の集計前ですけども、これまで実施した中で課題あるいはそれに対する対応策等があれば、この時点でお知らせいただければ皆さんでさらに共有していけるのかなと思いますのでお願いいたします。</p>
<p>正部家教育指導課長</p>	<p>2、3大きなところで申し上げます。課題といたしましては、500円券を4枚で2,000円分ということで今回行いましたけれども、使用率が約90%である。残り10%が使われなかったということで、全然使わなかった子どもたちがどれ位いるかということは今調査中ですけども、500円券を1枚なり2枚残して、それがしまわれたままであるというようなこともございました。その辺りを保護者の方も含めまして来年は宣伝して、100%を目指したいということが1つです。</p> <p>それからもう1点は、これは書店の方からいろいろ注文がありましたけれども、購入できる本について、最初は推薦する本ということで、そしてさらには参考書籍という形に変えていったわけですけども、そういった辺りで本屋さんとの連絡が上手くいかなかった部分があったので、来年度も実施となりましたらその辺を本屋さんとも検討しなければならない。大きくはこの2点でございます。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>はい、分かりました。ありがとうございます。</p>
<p>武輪委員</p>	<p>丁度マイブック推進事業のお話がありましたが、本のことについて教育指導課ではなく図書館のページでお話したいなと思います。マイブック推進事業がスタートして、また18ページの3番にもありますがブックスタートということでこちら7月から行われているわけですが、17、18ページに企画展示・貸出ということで①から③まで23項目にわたって企画展示というのが今回掲載されております。昨年の今の時期と比べてみても、この企画展示というのが非常にたくさん増えています。それも⑥にありますように「図書館員おすすめの本～ブッククーポンでなに買おう？～」というような企画をしたり、⑨の「子どもと楽しむ本の</p>

特集」ということで子どもと何か始めたい人へおすすめの本を展示するとか、新しい形での企画展示が非常に盛りだくさんで、図書館としても大人も子どもも本に親しんでほしいということが非常に表れていてとてもいいことだなと思っております。昨年のこの時期の企画展示は①から⑭まででした。9項目も企画展示が増えて非常にいいなと思っているのですが、図書館全体として、利用する人数ということだけではなくて、全体的にこのブッククーポン、ブックスタートというのが始まって、また「本のまち八戸」という形でやっていこうというのが打ち出されている中で、大人も子どもも本に対して今までとちょっと違うなというような点がありましたら、ご紹介いただければなと思っております。私たち教育委員会側だけではなくて、市民の方々からも本に対して何かこう違いが見られるものがあればお願いいたします。

藤田図書館長

ちょっとすぐには思いつかなかったんですけども、例えば今のブックスタートをやるにあたって、読み聞かせのボランティア3団体の方にお世話になっております。ボランティアとして読む方たちからの感想として1番多かったのが、自分たちが読んで聞かせているときに、赤ちゃんが笑ったり、こっちを振り向いたりしているということにすごく感動されたというんです。それから、連れてきた親御さんもまさか自分の子どもがそういうふうに、まだ3ヶ月ですからどこまで見えているのか分からないですけども、その中で子どもがすごく反応しているということがすごく嬉しかったようです。それで、さっそくブックスタートのバッグを持って図書館に来て「絵本を借りに来ました」という親子の姿も見られたりして、やはりすごくブックスタートについて反応があったと思っています。

また、図書館の職員は限られた人数なんですけれども、特に嘱託職員とか臨時職員も頑張ってくださいって、こういう企画をやるにあたっていろんなアイデアを出してくださったり、本を手にとってみたいなというふうなパネルを作ってくださいたり、そういう形でやっているということで、やはり随分そういう読書に関する関心が高まってきている。

自分自身も今館長になって初めての年ですけども、例えば「やまびこの会」という会が市の広報を録音して目の不自由な方に聞いてもらう作業をしているんですけども、今度は三浦文学の読み聞かせをやるということになっているので、そういう会にも参加してみたいなと思っています。お答えになっているかどうか分かりませんが。

武輪委員

はい、ありがとうございました。

岡本委員

13ページの総合教育センターの適応指導のことですけども、うみねこ教室の小さい学年の指導の中で3グループに分けてということを始められたというこ

<p>中奥総合教育センター 一指導主事</p>	<p>とですけれども、このⅠ、Ⅱ、Ⅲというのは学年で分けているのか、どういう効果を狙っていたのかをちょっとお聞かせいただきたいと思います。</p> <p>続いて、5番の特別支援の方でも新しい取組をされているようなんですけれども、早期発見・早期支援に向けてという辺りのところが初めてのことだと思うんですけれども、お知らせいただければと思います。</p> <p>下学年適応指導のうみねこキッズについてですけれども、4月から6月期はⅠとⅡの2つに分けて行っておりました。前年度は3つだったんですけれども今年度は1、2年生中心グループと3年生中心グループとで分けてやろうということで始めましたところ、ちょっと人数が多くなりまして、また、学年で分けていてもやはり特性によって少し差が出てきましたので、今年度の7月から9月期は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと3つの特性に分けて学年を混ぜてやっております。例えばⅠの方は、ちょっと自分の意見を素直に出せないお子さんとか。Ⅱの方は、出せるんですけども口が上手に回らないとか。Ⅲの方は、ちょっと衝動性が強くて飛び出してしまふ、あとは他のお子さんの気持ちを推し量ることができないというような特性に分かれて、ソーシャルスキルトレーニングを交えてゲームを通してやっております。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p>
<p>木村総合教育センター 一指導主事</p>	<p>早期発見・早期支援に向けての健康増進課との事業ですけれども、まず3歳児健康診断の方は、月2回ことばの検査者として、ことばのテスト絵本というものがありますので、そちらを使える専門指導員が検査者として参加しております。</p> <p>また、発達相談は、2歳から3歳と3歳から5歳の2つクラスがあるんですけれども、そこに専門指導員が、他の業務の関係もありますので参加できる場合は2名、少なくとも1名は月1回参加しています。こちらは相談員として参加して、健康増進課の方と一緒に保護者相談を受ける。そして、例えば特別支援学校の教育相談に繋いだり、またはセンターに来ていただいたの相談に繋げたりして、そこで終わらないでとにかく継続して相談しながら、小学校入学に向けてどのようなことが必要かを念頭に入れながら、様々な支援を継続していくという意図で参加しております。確実に繋がって、就学指導にも繋がり、4月入学に向けてスムーズなスタートを切れそうなお子さんもたくさんいらっしゃいます。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>そうすると、第3四半期の方には書いてあったのですが、発達相談のクラスというのは「のびのび」と「あいあい」のことですか。</p>

木村総合教育センター指導主事	はい。そうです。
岡本委員	はい、分かりました。ありがとうございます。
大庭委員	<p>今のことに関連します。13ページの3番の教育相談・適応指導教室事業のポツの4つ目に初回相談件数は56件。4～6月は40件。夏休み中の学校での個人面談を経て、保護者もしくは担任が相談を依頼するケースが増えたとあります。これは恐らくこういう制度あるいは対応策が、保護者あるいは生徒に浸透してきた結果だろうなというふうに捉えています。要するに、相談件数が増えているというのは、そういうふうに認知されてきたといえますか、知られてきたと。そういうことで、私はやはり良い方向に動いているのだと思っております。先ほどの事業評価の方と関連しますが、確かにどんどん相談件数が増えてくると、対応する人員の問題、経費の問題、施設の問題といろいろ大変かと思いますが、何とか対応していただきながら、先ほど言ったようにこれをさらに充実させる方向で頑張っていたいただければいいなという願いです。</p>
築瀬委員長	<p>はい、ありがとうございます。あとはよろしいですか。</p> <p>私から関連して、皆さんお話ししてくださったんですが、特別支援教育推進事業でこれまでもお話ししてきたんですが、やはりこれからは市長部局との連携が本当に大事になってくる。(仮称)子どもセンターの設置に向けた取組がいよいよ本格的に動いていく時期になるだろうと思われまので、このような取組の拡大とか課題を踏まえた取組を積極的に進めていくということが大事ななと思っておりますので期待しています。先ほどの木村先生の言葉の中で、「健康増進課の職員の方と一緒に相談をした」というところが非常に大事なところだと思っておりますので期待しているところです。</p> <p>あと一つは、教育委員会事務局の中でもその課であるとか、図書館であるとか、博物館であるとか、そこだけではなくて横の連携を事務局の中で取りながら、どういうことができるのかといったことを考えていくということが、非常に重要ななというふうに今改めて感じています。そういった繋がりを持った取組を、これからもお願いしたいなと思っております。ありがとうございました。</p>
築瀬委員長	<p>それでは次に、「平成26年度第3四半期の主な事業予定について」委員の皆さんから質問がありましたら、お願いいたします。</p>
大庭委員	<p>6ページの9番で、「教育の広場 in はちのへ」に関連してですけれども、この企画は私は非常にいいなと思います。教育に関わる者だけでなく、一般の方に</p>

もいろんな意味で八戸市の教育はこういう形で取り組んでいますというのを知っていただく良い機会であると思います。同時に、地域密着型教育ということを理解していただく一助にもなるかと思えます。そういう意味でいいなと思って企画を見ておりました。

その中で一つだけ、これは今すぐというのは無理な話なんです、これからの視点の中に入れていただければ有り難いなということでお話しします。もしこの展示の中で、小学校と高校の連携、あるいは中学校と高校の連携ということも考えていただければと。実際には行われていると思います。柏崎小学校と八戸東高校のこととか、八戸西高校と三条のこととか。そんなにスペースは取れないでしょうからちょっとした形でもいいので、そういうことも紹介していただければ、小・中だけでなく高校も含めて地域で子どもたちを育てるという視点で、見ていただく方の参考にもなるのかなと思います。こういうこともやっているんだということも、もし可能であれば企画していただければ有り難いと思っています。

そういうふうを考えるのは、小学校・中学校は非常に連携されています。それから中学校と高校については、ちょっとそこに溝があるんですけども、ただ入試とか直近の問題もありますので、体験入学とかということでの連携は少しはなされています。小・中よりは少ないんですけども。高・大については、やはり入試絡みで連携が進んでいます。

私が考えるのは、隣接した校種よりも小学校と高校、それから中学校と大学というように一つ飛んで、ここの連携がむしろ大事なんじゃないかという思いを持っています。理由は、併設したところであれば、当然身近な問題がテーマとなるわけですけども、例えば小学校の児童が高校の生徒と接触する。そこで高校生とはこういうふうなものなんだとを感じる。あるいは高校生にとっては、小学生と接することによって、将来教育系を考えている人たちは教育実習の2週間よりもずっと良い経験をするわけです。そういうふうなことで、双方にとって一つ飛んだところの連携というのは大事なんじゃないかなと思います。

例えば、中学校と大学の連携がもし可能であれば、高校で自分は何をやるのかというのが見えてくると思うんですね。必ずしも進学だけの意味ではありません。大学生と接することによって、将来の選択肢としてこういう職業があるんだ、こういうことを学びながら、社会でこういう生き方をしていけるんだと。そこを繋いでいくには、どうしても中・高だとあまりにも身近な問題になりすぎる。高・大もそうなんですね。だから、一つクッションを置いたところの連携が、将来子どもたちが進路選択していく上で参考になって、その間に挟まった時期、小学校と高校が連携できれば中学校時代をどう過ごすのかというところが見えてくるのではないかと思います。

これは私の個人的な思いですけども、そういうことも含めて先ほどの話に戻

	<p>ります。もしそういう小学校と高校みたいなものも紹介していただければ、やはり地域で子どもたち育てるんだよと。小・中だけでなく、連携しながら育てているんだよというような一つの視点が出てくるのかなと思います。取り入れるとすれば手数等を掛けることになるかと思いますが、検討していただければと思います。</p>
<p>正部家教育指導課長</p>	<p>本当に貴重な意見として参考にしたいと思います。我が校自慢ということで中学校の方からも上げていただくことになっておりますが、そこに今回載るかどうかは定かではございません。今おっしゃったように柏崎小と東高校であるとか、そういうようなことも分かっておりますので、少なくとも教育委員会側でもこういう事業をしていますということを模造紙1枚ずつにまとめますので、今後の一つの方向付けという点でも入れたいなというふうに今話を聞いて思いましたので、ありがとうございました。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>学校だけの「教育の広場 in はちのへ」ではなくて、教育行政としていろいろこんなことを考えていますとか、ここが大事ですよといった示唆も必要だということを受け取りましたので、よろしくお願ひしたいと思います。</p>
<p>武輪委員</p>	<p>5ページの4番、地域密着型教育推進事業ということで、11月27日にコーディネーター研修会とあります。地域密着型教育推進事業が進んで、定着という時期に入っているかと思うんですが、コーディネーターの活動が非常に重要な部分を占めてくるのではないかなと思っています。ただ、学校によっては今までやってくださったコーディネーターの方が何かの事情で辞められて、次に新しくお願いするにあたって次の方が見つからないというようなお悩みもあるのではないかなと思っていますが、具体的にこのコーディネーター研修会というのは、どういうものをされているのか。業務報告では、コーディネーター実践発表会という形で発表というのがありましたが、実際にコーディネーターの方々からはどういふ発表がされたのかお聞かせいただければと思います。</p>
<p>嘉瀬教育指導課 実践支援GL</p>	<p>コーディネーターの研修会は、年に3回計画して、ここ数年継続しております。コーディネーターには毎年新任の方がおりますので、1回目はコーディネーターの業務一般についてと、あとはベテランのコーディネーターと小グループになって情報交換等をしております。2回目の研修会は、今年度は日計ヶ丘小学校のベテランのコーディネーターの方に、コーディネーターとして過去数年やってきた活動内容であるとか、コーディネーターとしての先生方との関わり、あるいは地域の方々との関わりポイントについてお話をさせていただいております。昨年度は小中野小学校のベテランのコーディネーターにお話していただきました。3回</p>

<p>武輪委員</p>	<p>目は今度ありますけれども、まだ1年経っていないですけれども、今年度の各自の活動内容の報告あるいはコーディネーターに関して活動した業務に関するアンケート等も採りたいと思っています。それは報告書にまとめまして、お話があったようにコーディネーターというのは必ず継続ではございませんので、新たになる方のご参考になるように進めていきたいと考えております。</p> <p>コーディネーターに関して、引き受ける方がいらっしゃらないというか、辞められて次に新しい方を選ぶにあたって困っている学校というのは特にないのですか。コーディネーターをすぐに決められてスムーズに次の方に移られて、この地域密着がまた同じような形でスムーズに今は動いているような傾向でしょうか。</p>
<p>嘉瀬教育指導課 実践支援GL</p>	<p>コーディネーターの選任にあたっては、学校の方から推薦をいただいて、こちらから委嘱状を出すという形になっているんですけれども、実際コーディネーターの方がなかなか見つからないという学校・学区もあるようです。PTAのOBの方が多いんですけれども、先輩のOBから後輩のOBに「あなたやりなさい」というように受け渡しがされるのが一般的なようには聞いております。ただ、やれる範囲でということ、お勤めをしながら、時間で働いている方であれば空き時間であるとか、あるいはフルタイムで働いている方でも夜の時間帯だけはお手伝いできますとか、やれる範囲で複数配置の形もありますので、お手伝いいただいているという状況になっています。</p>
<p>武輪委員</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p>
<p>築瀬委員長</p>	<p>他によろしいですか。</p> <p>それでは各委員さんから発言いただきましたけれども、私から1つ2つ。</p> <p>マイブック推進事業については、先ほども話題に出ました。これから成果と課題を明らかにして、各学校、各書店へ周知するとありますけれども、私は特に市民や保護者の声をどのように周知するのかを大事にしていきたいと思っています。学校の先生方とか子どもたちだけではなくて、やはり周りの市民がどう受け止めているのかといったことにも耳を傾けて、客観的に見ているので的確に鋭いところを突いている場合もあります。ですから、そういったところを改善点に活かしてほしいなと思っています。</p> <p>2つ目ですが、先ほども防災教育の話が出まして、防災副読本の話も出ていました。前にも私から大事な事業なので取組をお願いしたいと言ったんですが、再度お願いしたいのは、今後副読本を作成してまとめの段階に入っていくと思います。そしてそれが終わると活用に入っていくと思いますが、大事にしてほしいのはやはりさっきと同じです。学校だけではなくて、保護者とか各地域には自主防</p>

	<p>災会があります。この自主防災会の組織は、非常に大事な組織です。ですから、そういった活発に取り組んでいる地域の自主防災会の会長さんなどに意見を聞くということも、防災に関しては学校だけで取り組むことではないわけですので、是非そういうところとの連携を深めていってほしいなと思っておりますので、よろしくをお願いします。</p> <p>それでは以上で、業務報告・事業予定のところを終わりたいと思います。</p>
築瀬委員長	<p>次に、「平成27年八戸市成人式について」事務局からの説明をお願いいたします。</p>
田中社会教育課長	<p>(資料「平成27年八戸市成人式について」に基づき説明)</p>
築瀬委員長	<p>ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いいたします。</p>
武輪委員	<p>2つ確認と質問をさせていただきたいと思います。次第にありますアトラクションですが、オープニングとして式典を盛り上げる効果として非常に大きいのではないかなと思っておりますが、今現在、27年の成人式のアトラクションはどういうものやるか決められていらっしゃるのでしょうか。</p> <p>あともう1点ですが、もしかすると以前に確認したかもしれませんが、対象者は平成6年4月2日から平成7年の4月1日までの出生者とありますが、住民票に関係なく今八戸市に住民票がない方でも、こちらの八戸市の成人式に出席は可能だったかどうか確認したいと思います。</p>
田中社会教育課長	<p>まずアトラクションですけれども、結論から言うとまだ決まっておりません。これまではバトンであるとか、小さい子どもたちのダンスであるとか、今年は太鼓をやったんですが、新成人からの意見として同世代が頑張っているのを見たいというのがありましたので、何かないかと探しておりましたが、なかなか同世代の方が頑張っているというのは見つけられずにいました。先ほど高校総合文化祭の開会式の話がありましたけれども、そういう高校生が頑張っているのを現役世代にといいますか、高校生から先輩へのエールという形でもいいのかなということで、教育長とも相談しながら選定にあたっているところです。</p> <p>2つ目の対象者ですが、まず、現在住民票がある方にはハガキを発送します。住民票を動かしている方についても、具体的に「今仙台に住民票を持ってきているんだ」という問い合わせもありましたが、そういう方もハガキがなくても参加いただけることになっております。ですから、例年ですとこの対象者の85～88%ぐらいの参加率ですけれども、記念品の数とか資料的には十分に間に合うかなと思っております。</p>

武輪委員	いいアトラクションが見つければいいなと思っています。よろしく願いいたします。
築瀬委員	以前には高校の吹奏楽とかやっておりました。
岡本委員	新しい試みとして、椅子のお片付けということが聞こえてきたんですけれども、それはどのような経緯からか、どういうことでやるのか、お聞かせいただければと思います。
田中社会教育課長	数年前から社会教育委員とか他の方からも、式典が形骸化しているとまでは言いませんけれども、新成人はただのお客さんでいいのかという指摘がありました。確かに粛々と毎年同じような形で進んでおったのですが、教育長とも相談しながら、3年後には、例えば実行委員会を作るとか、新成人による運営を考えています。その初段階として、まずは椅子の片付けを手伝ってもらうのはどうかということで進めております。今までは業者が片付けをやっておったんですが、新成人の方に手伝ってもらうにしても、先生のボランティアを少し多めにお願いするとかという手立ても考えなければならないんですが、まずは参加している意識を少し持ってもらおうということで次回は運営することとしております。
岡本委員	今お聞きしております、私たちの社会というのは、いろんな人の手でできているということを知ってもらい良いチャンスでもあると思います。言葉が適切かどうか分かりませんが、おっしゃるように形骸化しているといいますか、やはり成人式というイメージがもうできてしまっている。やはり成人というのは、本当に大事なときで、ある程度重みのある年齢になるわけなんですけれども、そういうことも踏まえて、八戸市らしく、それが市民の方にも分かりやすくできる方法でやれば良いなと思います。それはやはりおっしゃるように自らがということが一番だと思うんですけれども、それと共にみんなからお祝いされているという気持ちもどこかに必ず感じていただけるような内容であれば良いなというふうに思ってお聞きしました。
築瀬委員長	はい、ありがとうございました。 他によろしいですか。
築瀬委員長	その他に移りますけれども、事務局から報告事項はございますか。
築瀬委員長	事務局からは以上のようなようです。それでは最後にその他ですが、委員の皆様方

築瀬委員長	<p>ら何かございますでしょうか。</p> <p>それではこれを持ちまして、平成26年10月の教育委員会定例会を終了いたします。ありがとうございました。</p> <p>(午後2時46分終了)</p>
-------	---